

留学感想

孟天任

孟天任と申します。山西省の出身で、天津理工大学物流管理専攻を卒業しました。大学三年生の時に、大阪産業大学に一年間留学しました。

交換留学の一年間、目標が特に何もなかったのも、のんびりと過ごしました。卒業に近づいてきたら、自分の将来を心配するようになり、色々考えた末、日本の大学院に進学することを決心しました。大阪産業大学で一年間留学していましたが、同大学の大学院に進学することは決して難しくないと思います。しかし、自分自身がそのまま簡単に入れる大学に甘んじて良いのか真剣に考えました。その後、和風日本語留学のウェブサイトの先生と連絡を取って、亜細亜友之会外語学院の大学院進学コースに入学し、国立大学にチャレンジすることにしました。

亜細亜友之会外語学院の先生方が心から学生のことを考えてくださること、また本当に学生のために懸命に働いている姿に感動しました。この学校では、基本的な挨拶、礼儀作法がとても重視されています。例えば、事務所・教務室に入る時は必ず「失礼します。こんにちは」、学校内で担当ではない先生に会った時も必ず「おはようございます。こんにちは。さようなら」などと挨拶をしなければなりません。学校では、日本語の勉強と進学指導は勿論教えてもらえるのですが、日本の文化・習慣などについても丁寧に教えて戴きました。

私は 2013 年 10 月に亜細亜友之会外語学院に入学しました。入学当時、日本語能力試験 N 2 に合格していました。日本語学校に入った理由の一つは、自分の日本語能力がまだまだ不足していると自覚していたからです。日本語学校で行われた日本語能力試験の集中指導のおかげで、2013 年 12 月、N 1 に合格できました。日本語を勉強し始めた頃から、N 1 の合格を目指していたので、本当に嬉しかったです。先生方の指導と能力試験対策授業なくしては、N 1 の試験に絶対合格できなかったと思います。

大学院受験にもっとも重要なものは研究計画書だと思います。日本語学校にいる 6 ヶ月間に、午前は教授の著書と専門知識を独学し、午後は日本語能力試験の受験勉強をし、夜は研究計画書に必要な資料を探したり、研究計画書を直したり、毎晩深夜遅くまで勉強していました。日本語学校の授業は午後 5 時で終わりますが、先生方はいつも遅くまで教務室に残って進学指導をしています。遅い時は夜 11 時に私の研究計画書を直して下さったこともあります。その後、試してみるつもりで、横浜国立大学大学院経営学専攻の研究生に出願することを決めました。

出願後、筆記試験の小論文の書き方、面接試験の注意点など細かく指導して頂きました。私の専攻では線形代数、統計学などの専門知識が必要とされました。日本語学校で高い日本語能力を培わなかったら、日本語でそれらの専門書を読むことは絶対できなかったと思います。日本語学校にいる 6 ヶ月間に、日本語、研究計画書、教授との連絡、面接など全ての面において指導して頂きました。

2014 年 4 月から、横浜国立大学大学院の研究生として、新しい留学生活が始まります。亜細亜友之会外語学院と別れる時は、どうしても後ろ髪を引かれる思いがします。最後になりますが、先生方とクラスメイトの皆さんに心からお礼を申し上げたいと思います。先生方とクラスメイトの皆さんのおかげで、充実した半年間を過ごすことができました。皆さんが亜細亜友之会外語学院で自分の

夢が叶うように祈っています。